

博士学位論文審査報告書

大学名 早稲田大学
研究科名 スポーツ科学研究科
申請者氏名 大石 徹
学位の種類 博士（スポーツ科学）
論文題目 コンディション マネジメント モデルの開発
Development of the Condition Management Model

論文審査員 主査 早稲田大学教授 赤間 高雄 医学博士（筑波大学）
副査 早稲田大学教授 堀野 博幸 博士（人間科学）（早稲田大学）
副査 早稲田大学教授 秋本 崇之 博士（医学）（筑波大学）
副査 国立スポーツ科学センター 清水 和弘 博士（スポーツ医学）（筑波大学）

本博士学位論文は、選手の適切なセルフコンディショニングの過程が競技力向上に結びつくとの仮説をコンディション マネジメント モデルと名づけ、その開発と検証を行った研究である。

本博士学位論文は、第1章：序論、第2章：本研究の構成、第3章：ラグビーにおけるコンディション マネジメントに果たすメールアドバイスシステムに関する研究（研究課題1）、第4章：ラグビー選手のコンディション マネジメントに関する「意識と心掛け」数値化の試み（研究課題2）、第5章：ラグビー選手のための「意識と心がけ指標」と競技水準との関連（研究課題3）、第6章：コンディション マネジメント モデルの提唱と検証（研究課題4）、第7章：総括討論、第8章：結語、で構成されている。

第1章序論では、選手が自分自身のコンディションの変化や問題に気づき、適切な自己分析をして最適な行動をとることが競技力向上に結びつくとの仮説の着想の根拠について、先行研究の知見を整理している。

第3章（研究課題1）では、選手が自分のコンディションを理解し、それに応じた行動を取ることができるようにセルフコンディショニングに特化した情報発信を行う試みをメールによるアドバイスという形式で行い、その効果を分析した。その結果、コンディション マネジメント モデルにおける「意図・判断」を適切に行えるようにアドバイスすることが適切な「行動」に結びつき、競技力向上につながる可能性が示唆された。この研究課題1の結果は、大石徹，河野一郎（2008）：ラグビーにおけるコンディションマネジメントに果たすメールアドバイスシステムに関する研究. ラグビー科学研究 Vol. 20 No. 1, 37-44. として掲載されている。

第4章（研究課題2）では、コンディション マネジメント モデルの「意図・判断」と「行動」の段階を評価するために、ラグビー選手を対象として、「意識と心がけ指標」を作成した。78の候補項目について、因子分析により、29項目が抽出され、それらは5つの下位指標

に分類された。5つの下位指標は競技力とも関係があることが確認された。研究課題2の結果は、大石徹，中野恵介(2009)：ラグビー選手のコンディション マネジメントに関する“意識と心掛け” 数値化の試み. ラグビー科学研究 Vol. 21 No. 1, 15-22. として掲載されている。

第5章（研究課題3）では、研究課題2とは競技水準の異なるラグビー選手を対象にして、研究課題2で作成したラグビー選手のための「意識と心がけ指標」の有用性を確認するとともに、新たに重回帰モデルを用いて指標と競技水準の重回帰モデルの妥当性を検証した。選手がコンディションの変化や問題について「意図・判断」し、その時の自分の最適な「行動」をするというコンディション マネジメント モデルを、ラグビー選手のための「意識と心がけ指標」で評価でき、また、ラグビー選手のための「意識と心がけ指標」で選手の競技水準を予測するという有用性を検証できた。この研究課題3の結果は、大石徹，中野恵介，山本巧，赤間高雄(2016)：ラグビー選手のための「意識と心がけ指標」と競技水準との関連. スポーツ科学研究 Vol. 13, 1-11. として掲載されている。

第6章（研究課題4）では、研究課題1、2、3の対象とは競技力と年齢が異なる対象において、研究課題3までで開発したラグビー選手のための「意識と心がけ指標」の5つの下位指標のうち、他のスポーツにも利用できる3つの下位指標と競技力との関係を検討した。また、新たに、セルフコンディショニングの起点になる「気づき・感覚」についての測定指標の検討も行った。コンディション マネジメント モデルにおける評価指標として「意識と心がけ指標」を使用することによって、競技力向上に必要な問題点や改善すべき点を分析できることが確認できた。しかし、「気づき・感覚」についての測定指標は確立できず、今後の課題となった。

以上の研究成果から、コンディション マネジメント モデルにおける「意図・判断」と「行動」をラグビー選手のための「意識と心がけ指標」で評価することによって、選手自身のセルフコンディショニングの過程が競技力向上に結びつくというコンディション マネジメント モデルの妥当性が検証できたと総括された。

博士論文公開審査会においては、研究概要の発表の後、質疑応答が行われた。本研究で開発したコンディション マネジメント モデルを他のスポーツや他の競技力の選手へ応用する際の課題について質疑応答があった。また、第3章ではメールアドバイス以外の要因の関与に追記すること、第8章の結語ではコンディション マネジメント モデルが成立するという結論を明確に記載することとの指摘があった。これら審査会での指摘に基づいて修正と追記が行われ、各審査員の確認のうえ、最終論文として提出された。

以上の審査結果により、本申請者は、博士（スポーツ科学）の学位を授与するに十分値するものと認める。

【本博士学位論文に関係する原著論文】

大石徹，中野恵介，山本巧，赤間高雄(2016)：ラグビー選手のための「意識と心がけ指標」と競技水準との関連. スポーツ科学研究 Vol. 13, 1-11.

以上